

農業共済事業特別会計

1 業務実績

各共済種目の業務量の前年度比較は、第1表のとおりである。

(1) 農作物共済

水稲共済引受は、戸数 2,474 戸（対前年度 32 戸減）ではあるが、面積 104,325 a（対前年度 2,437 a 増）、引受収量 3,460,693kg（対前年度 58,498kg 増）、共済金額 671,374,442 円（対前年度 7,946,417 円増）となっている。

被害は、被害戸数 120 戸（対前年度 53 戸減）で、被害面積 2,239 a（対前年度 1,571 a 減）、共済減収量 17,684kg（対前年度 8,222kg 減）、共済金支払額 3,430,696 円（対前年度 1,620,974 円減）となっている。これは6月の日照不足、梅雨明けの高温、一時的な豪雨、山沿いの地域での獣害などによるものである。

麦共済の引受は、県農作物改良協会の割当による種子用麦が主な栽培であり、戸数 35 戸（対前年度 15 戸増）で、引受面積 2,881 a（対前年度 81 a 減）、引受収量 45,307kg（対前年度 5,038kg 減）、共済金額 8,441,819 円（対前年度 962,319 円減）となっている。

被害は、被害面積 207 a（対前年度 256 a 減）で、共済減収量 718kg（対前年度 982kg 減）、共済金支払額 150,780 円（対前年度 197,566 円減）となっている。これは、播種直後の大雨や3月以降の降雨による湿害等によるものである。

また、損害防止事業として、市が実施する野生動物防護柵設置事業補助金にかかる財源として、水稲共済損害防止事業助成金交付要綱に基づく連合会負担金と合わせて 1,500,000 円助成している。

第1表 業務量の比較

農作物共済

(単位 : 戸・a・kg・円)

共済目的	年産	引 受 状 況					被 害 状 況				
		戸 数	面 積	引 受 収 量	平均単収	共 済 金 額	戸 数	面 積	共済減収量	共済金支払額	
水稲	24	2,474	104,325	3,460,693	474	671,374,442	120	2,239	17,684	3,430,696	
	23	2,506	101,888	3,402,195	477	663,428,025	173	3,810	25,906	5,051,670	
	増減	△ 32	2,437	58,498	△ 3	7,946,417	△ 53	△ 1,571	△ 8,222	△ 1,620,974	
	率	-1.3%	2.4%	1.7%	-0.6%	1.2%	-30.6%	-41.2%	-31.7%	-32.1%	
麦	25	35	2,881	45,307	225	8,441,819					
	24	20	2,962	50,345	243	9,404,138	5	207	718	150,780	
	23	15	2,634	49,661	269	9,321,481	4	463	1,700	348,346	
	増減	15	△ 81	△ 5,038	△ 18	△ 962,319	1	△ 256	△ 982	△ 197,566	
	率	75.0%	-2.7%	-10.0%	-7.4%	-10.2%	25.0%	-55.3%	-57.8%	-56.7%	

麦については共済の引受期間が2年度にわたるため、24年度の引受状況に関する数値は25年産麦の数値で、24年度の被害状況の数値は2年度の引受に対するものである。

(2) 家畜共済

乳牛の引受は、農家戸数が2戸(対前年度と変わらず)で、頭数は125頭(対前年度1頭増)、1頭当たり共済金額118,071円(対前年度18,854円増)となっている。

被害は、病傷事故が47件(対前年度21件増)で、共済金支払額が484,320円(対前年度170,380円減)、死廃事故が9件(対前年度5件減)で、共済金支払額が587,141円(対前年度807,007円減)となっている。

肉用牛(肥育)の引受は、農家戸数は8戸(対前年度2戸増)、頭数が810頭(対前年度88頭減)、1頭当たり共済金額が222,884円(対前年度65,377円増)となっている。

被害は、病傷事故が126件(対前年度6件減)で、共済金支払額が1,791,150円(対前年度1,460円増)。死廃事故が13件(対前年度21件減)で、共済金支払額が2,375,951円(対前年度1,722,870円減)となっている。

肉用牛(その他)の引受は、農家戸数は12戸(対前年度6件減)、頭数が487頭(対前年度34頭増)、1頭当たり共済金額が160,915円(対前年度1,360円増)となっている。

被害は、病傷事故が171件(対前年度20件増)で、共済金支払額が1,650,620円(対前年度261,190円増)。死廃事故が27件(対前年度9件増)で、共済金支払額が2,291,846円(対前年度147,453円増)となっている。

一般馬の引受は、農家戸数1戸(前年度同数)で、頭数が12頭(対前年度5件減)、1頭当たり共済金額が100,000円(前年度と変わらず)となっている。

被害は、死亡事故、病傷事故ともありませんでした。

また、一般損害防止事業として予防衛生薬剤の配布に250,370円、特定損害防止事業として県連合会へ委託し疾病等予防活動に439,820円を支出している。

第1表 業務量の比較

家畜共済

(単位 : 戸・頭・円・件)

共済目的	年度	引 受 状 況				被 害 状 況			
		戸 数	頭 数	共 済 金 額	1 頭 当 り 共 済 金 額	病 傷 事 故		死 廃 事 故	
						件 数	共 済 金 支 払 額	件 数	共 済 金 支 払 額
乳 牛	24	2	125	14,758,900	118,071	47	484,320	9	587,141
	23	2	124	12,302,890	99,217	26	654,700	14	1,394,148
	増減	0	1	2,456,010	18,854	21	△ 170,380	△ 5	△ 807,007
	率	0.0%	0.8%	20.0%	19.0%	80.8%	-26.0%	-35.7%	-57.9%
肉(肥 育) 牛	24	8	810	141,441,700	174,619	126	1,791,150	13	2,375,951
	23	6	898	141,441,286	157,507	132	1,789,690	34	4,098,821
	増減	2	△ 88	414	17,112	△ 6	1,460	△ 21	△ 1,722,870
	率	33.3%	-9.8%	0.0%	10.9%	-4.5%	0.1%	-61.8%	-42.0%
肉(そ 他) 牛	24	12	487	78,365,520	160,915	171	1,650,620	27	2,291,846
	23	18	453	72,278,600	159,555	151	1,389,430	18	2,144,393
	増減	△ 6	34	6,086,920	1,359	20	261,190	9	147,453
	率	-33.3%	7.5%	8.4%	0.9%	13.2%	18.8%	50.0%	6.9%
一 般 馬	24	1	12	1,200,000	100,000	0	0	0	0
	23	1	17	1,700,000	100,000	5	32,570	0	0
	増減	0	△ 5	△ 500,000	0	△ 5	△ 32,570	0	0
	率	0.0%	-29.4%	-29.4%	0.0%	-100.0%	-100.0%	-	-

(3) 畑作物共済

引受は、戸数 150 戸（対前年度 37 戸減）で、引受面積 6,219 a（対前年度 851 a減）、引受収量 38,309kg（対前年度 6,829kg 減）、共済金額 54,955,169 円（対前年度 15,350,223 円減）となっている。

被害は、被害戸数 33 戸（対前年度 27 戸減）で、被害面積 1,195 a（対前年度 724 a減）、共済減収量 1,982kg（対前年度 538kg 減）、共済金支払額 2,879,846 円（対前年度 1,086,634 円減）となっている。

第1表 業務量の比較

畑作物共済		(単位 : 戸・筆・a・kg・円)									
共済目的	年度	引 受 状 況					被 害 状 況				
		戸 数	面 積	引受収量	平均単収	共 済 金 額	戸 数	面 積	共済減収量	共済金支払額	
大 豆	24	150	6,219	38,309	86	54,955,169	33	1,195	1,982	2,879,846	
	23	187	7,070	45,138	87	70,305,392	60	1,919	2,520	3,966,480	
	増減	△ 37	△ 851	△ 6,829	△ 1	△ 15,350,223	△ 27	△ 724	△ 538	△ 1,086,634	
	率	-19.8%	-12.0%	-15.1%	-1.1%	-21.8%	-45.0%	-37.7%	-21.3%	-27.4%	

(4) 園芸施設共済

引受は、戸数 21 戸（対前年度 3 棟減）で、引受棟数 53 棟（対前年度 55 棟減）、共済金額は 16,973,000 円（対前年度 18,569,000 円減）となっている。

被害は、被害戸数 3 戸（対前年度 3 戸減）で、棟数 3 棟（前年度 5 棟減）、共済金支払額 73,244 円（対前年度 179,143 円減）となっている。

第1表 業務量の比較

園芸施設共済

(単位 : 戸・棟・㎡・円)

共済目的	年度	引 受 状 況				被 害 状 況				
		戸 数	棟 数	面 積	共 済 価 格	共 済 金 額	戸 数	棟 数	損 害 額	共 済 金 支 払 額
プラスチックハウス 内作無し	24	21	53	12,739	21,250,000	16,973,000	3	3	91,998	73,244
	23	24	108	25,479	44,492,000	35,542,000	6	8	316,668	252,387
	増減	△ 3	△ 55	△ 12,740	△ 23,242,000	△ 18,569,000	△ 3	△ 5	△ 224,670	△ 179,143
	率	-12.5%	-50.9%	-50.0%	-52.2%	△ 0.5	-50.0%	-62.5%	-70.9%	-71.0%

2 予算の執行状況

(1) 収益的収支

収益的収支の執行状況は、第2表のとおりである。

収益的収入の合計は、予算額 85,265,000 円に対して、決算額は 62,986,804 円で、予算額に対して△22,278,196 円であり、その執行率は 73.9%となっている。

収益的支出の合計は、予算額 85,265,000 円に対して、決算額は 61,712,858 円で、不用額は 23,552,142 円であり、執行率は 72.4%となっている。

① 収益的収入

農作物共済勘定では、予算額 11,270,000 円に対して、決算額は 5,310,350 円（執行率 47.1%）で、予算額に対して△5,959,650 円である。

家畜共済勘定では、予算額 20,113,000 円に対して、決算額は 15,560,859 円（執行率 77.4%）で、予算額に対して△4,552,141 円である。

畑作物共済勘定では、予算額 16,708,000 円に対して、決算額は 6,833,625 円（執行率 40.9%）で、予算額に対して△9,874,375 円である。

園芸施設共済勘定では、予算額 973,000 円に対して、決算額は 323,025 円（執行率 33.2%）で、予算額に対して△649,975 円である。

業務勘定では、予算額 36,201,000 円に対して、決算額は 34,958,945 円（執行率 96.6%）で、予算額に対して△1,242,055 円である。

② 収益的支出

農作物共済勘定では、予算額 11,270,000 円に対して、決算額は 5,222,993 円（執行率 46.3%）で、6,047,007 円の不用額である。

家畜共済勘定では、予算額 20,113,000 円に対して、決算額は 15,071,392 円（執行率 74.9%）で 5,041,608 円の不用額である。

畑作物共済勘定では、予算額 16,708,000 円に対して、決算額は 6,179,011 円（執行率 37.0%）で、10,528,989 円の不用額である。

園芸施設共済勘定では、予算額 973,000 円に対して、決算額は 280,517 円（執行率 28.8%）で、692,483 円の不用額である。

業務勘定では、予算額 36,201,000 円に対して、決算額は 34,958,945 円（執行率 96.6%）で、1,242,055 円の不用額である。

第2表 収益的収支の執行状況

(単位：円・%)

区 分	収 入				支 出				当該年度 純 利 益
	予 算 額	決 算 額	増 減	執行率	予 算 額	決 算 額	不 用 額	執行率	
農作物 共済勘定	11,270,000	5,310,350	△ 5,959,650	47.1%	11,270,000	5,222,993	6,047,007	46.3%	87,357
家畜 共済勘定	20,113,000	15,560,859	△ 4,552,141	77.4%	20,113,000	15,071,392	5,041,608	74.9%	489,467
畑作物 共済勘定	16,708,000	6,833,625	△ 9,874,375	40.9%	16,708,000	6,179,011	10,528,989	37.0%	654,614
園芸施設 共済勘定	973,000	323,025	△ 649,975	33.2%	973,000	280,517	692,483	28.8%	42,508
業 務 勘 定	36,201,000	34,958,945	△ 1,242,055	96.6%	36,201,000	34,958,945	1,242,055	96.6%	0
合 計	85,265,000	62,986,804	△ 22,278,196	73.9%	85,265,000	61,712,858	23,552,142	72.4%	1,273,946

3 経営成績

(1) 損益状況

損益状況の前年度比較は、第3表のとおりである。

全体で、収益 62,986,804 円に対して費用 61,712,858 円で、差引 1,273,946 円の当年度純利益を計上している。

前年度と比べると、収益は 13,503,372 円、費用も 12,238,532 円減少している。

勘定科目ごとに見ると、農作物共済勘定は、収益 5,310,350 円に対して、費用は 5,222,993 円で、87,357 円の当該年度純利益となっている。

家畜共済勘定は、収益 15,560,859 円に対して、費用は 15,071,392 円で、489,467 円の当該年度純利益となっている。

畑作物共済勘定は、収益 6,833,625 円に対して、費用は 6,179,011 円で、654,614 円の当該年度純利益となっている。

園芸施設共済勘定は、収益 323,025 円に対して費用は 280,517 円で、42,508 円の当該年度純

利益となっている。

業務勘定は、収益・費用とも 34,958,945 円で、当該年度純利益はない。

(2) 収 益

① 事業収益

事業収益は 59,211,489 円で、前年度に比べ 8,931,211 円 (△13.1%) 減少している。主に農作物共済勘定の共済掛金 2,145,291 円 (△48.2%)、交付金 860,605 円 (△71.0%)、保険金 454,634 円 (△33.7%)、家畜共済勘定の保険金 1,733,244 円 (△23.9%)、園芸施設共済勘定の保険金 161,227 円 (△71.0%) が減少したことによる。

② 事業外収益

事業外収益は 3,775,315 円で、前年度に比べ 4,572,161 円 (54.8%) 減少している。主にう受取寄付金 3,940,000 円 (51.8%)、業務雑利益が 0 円となっている。

(3) 費 用

① 事業費用

事業費用は 61,712,858 円で、前年度に比べ 12,238,532 円 (16.5%) 減少している。これは、平成 24 年は、梅雨入り後の日照不足、局地的、一時的な豪雨はあったものの全般的に台風接近等による大きな被害がなかったため大幅な減少となった。

② 事業外費用

事業外費用は、0 円である。

第3表 損益状況の比較（別表のとおり）

4 財政状況

貸借対照表の前年度比較は、第4表のとおりである。

(1) 資産

資産総額は130,679,160円で、前年度末に比べ824,003円減少している。

① 流動資産

流動資産は129,436,656円で、前年度末に比べ465,107円(△0.4%)減少している。主に業務勘定において現金預金が2,589,447円(△4.8%)減少したことによる。

② 固定資産

固定資産は1,242,504円で、前年度末に比べ358,896円(22.4%)減少している。

有形固定資産(車両及び器具)の減価償却費358,896円の減少したことによる。

(2) 負債

負債は68,764,783円で、前年度末に比べ663,375円(△1.0%)減少している。主に家畜共済勘定において、未払い金が299,018円(△28.6%)、業務勘定において一時借入金が327,764円(0.5%)減少したことによる。

固定負債は全て業務引当金4,353,168円で、前年度末と同額である。

(3) 資本

資本は61,914,377円で、前年度末に比べ160,628円(0.3%)減少している。

剰余金は60,640,431円で、前年度末に比べ1,104,212円(1.9%)増加している。内訳は、法定積立金が24,503,449円で、前年度末に比べ987,170円(4.2%)、特別積立金が36,136,982円で、前年度末に比べ117,042円(0.3%)増加している。

当該年度末処分剰余金は、1,273,946円となり、1,264,840円(49.8%)減少している。

第4表 貸借対照表の比較（別表のとおり）

5 まとめ

決算の概要は前述のとおりである。

高齢化による就業者の減少と集落自体の活力低下により耕作放棄地が増加するなど地域農業の衰退が続く中、農家の経営は農作物価格の低迷、生産量の減少、生産資材価格の高騰等に加え、TPP協定への対応など、経営規模の拡大化等大きな転換を迫られている状況である。

共済金額は 1,026,604 千円で前年度（1,006,403 千円）（2.01%増、20,201 千円増）を上回る引き受けとなった。

一方被害の発生状況では、共済金支払額は、梅雨入り後の日照時間不足や局地的な豪雨、中山間地域を中心とした鳥獣害による被害が発生したが、台風等による大きな被害もなく、水稻で 3,431 千円（対前年度比△1,621 千円・△32.1%）、麦で 151 千円（前年度対比△198 千円・△56.7%）、大豆で 2,880 千円（対前年度比△1,087 千円・△27.4%）となっている。また、家畜では畜産農家の高齢化や後継者不足による引受頭数が減少し、死廃事故で 5,255 千円（対前年度比△2,382 千円、△31.2%）となり、病傷事故では 3,926 千円（対前年度比 60 千円・1.5%増）となった。園芸施設においては、高齢化により継続されない農家や経営規模縮小による引受戸数、棟数とも減少し、また、大きな被害もなく 73 千円（対前年度比△179 千円・△71.0%）と大幅な減となっている。

損害防止事業については、昨年に引き続き鳥獣被害防護柵設置事業、鹿個体数管理・調整事業、有害鳥獣捕獲事業への費用助成や適期防除を促進するための病害虫発生状況調査の実施、家畜共済では予防衛生措置や多発する疾病に対して予防薬の配布等に努められているが、近年は気象に左右されることが多いことから、さらに関係機関との連携を図り病害虫発生状況等の情報提供など被害の未然防止の啓発に一層努められたい。

経営状況については、前年度と比べ純利益が 1,274 千円（対前年度比△1,265 千円、△49.8%）となっている。勘定別にみると、当該年度純利益は農作物共済勘定で 87 千円、家畜共済勘定で 489 千円、畑作物共済勘定で 655 千円、園芸施設共済勘定で 44 千円、業務勘定では純利益はない。これにより、法定積立金と特別積立金は、全体で 672 千円の減となっている。

今後とも損害防止事業の推進等により健全な財政運営を図られるとともに、任意加入の推進を図り「災害による損失の補てんと損害の未然防止」の NOSAI 制度の機能を十分に発揮し、農業災害補償法の趣旨に添った加入者の利便性を高める損害補填の充実に努められたい。